

## 9 国際機関実務体験プログラム（育成・支援プログラム）

横浜・みなとみらい地区の国際機関で、100 時間の実務体験をおこなうプログラム。毎年春期と夏期の長期休暇に実施されている。公益財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）と本学との協働事業で、これまで 100 名以上の学生が参加している。対象校は本学を含めた横浜市内の五つの大学。

国際交流や国際協力の実務を体験することにより、大学で習得した学問と実務機関での実践を融合させ、多文化共生に向けた国際性豊かな人材の育成を目的としている。参加した学生たちは、このインターンシッププログラムでの経験を留学や大学院進学、就職などへとつなげている。

### ●派遣先活動実績

年度	期	派遣人数	派遣先名
2004 年	春期	3 名	国連食糧農業機関（FAO） 国際連合世界食糧計画 WFP 協会 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
2005 年	夏期	3 名	国連食糧農業機関（FAO） 特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
	春期	3 名	横浜日仏学院 国連大学高等研究所（UNU-IAS） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
2006 年	夏期	3 名	国連食糧農業機関（FAO） 独立行政法人国際協力機構横浜国際センター（JICA 横浜） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
	春期	3 名	特定非営利活動法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会 国連大学高等研究所（UNU-IAS） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
2007 年	夏期	3 名	国連食糧農業機関（FAO） 独立行政法人国際協力機構横浜国際センター（JICA 横浜） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
	春期	4 名	国連食糧農業機関（FAO） 国連大学高等研究所（UNU-IAS） アジア太平洋都市間協力ネットワーク（CITY-NET） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE）
2008 年	夏期	3 名	国連大学高等研究所（UNU-IAS） 財団法人横浜市国際交流協会（YOKE） 国際連合食糧農業機関（FAO）
	春期	2 名	国連大学高等研究所（UNU-IAS） アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）

年度	期	派遣人数	派遣先名
2009年	夏期	2名	独立行政法人国際協力機構横浜国際センター (JICA 横浜) 財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	2名	国連大学高等研究所 (UNU-IAS) アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)
2010年	夏期	2名	国連食糧農業機関 (FAO) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	2名	国連大学高等研究所 (UNU-IAS) アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)
2011年	夏期	2名	独立行政法人国際協力機構横浜国際センター (JICA 横浜) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	3名	国連大学高等研究所 (UNU-IAS) アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC) アジア太平洋都市間協力ネットワーク (CITY-NET)
2012年	夏期	2名	国連食糧農業機関 (FAO) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	1名	国連大学高等研究所 (UNU-IAS)
2013年	夏期	2名	独立行政法人国際協力機構横浜国際センター (JICA 横浜) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	1名	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC)
2014年	夏期	2名	国際熱帯木材機関 (ITTO) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	2名	国連食糧農業機関 (FAO) アジア太平洋都市間協力ネットワーク (CITY-NET)
2015年	夏期	3名	国際熱帯木材機関 (ITTO) 独立行政法人国際協力機構横浜国際センター (JICA 横浜) 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)
	春期	3名	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC) * 公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) アジア太平洋都市間協力ネットワーク (CITY-NET)
2016年	夏期	2名	公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE) * 国際熱帯木材機関 (ITTO)
	春期	2名	アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター (IUC) アジア太平洋都市間協力ネットワーク (CITY-NET)

## \*派遣学生からの報告

### ◇アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）

活動期間	2016年2月1日（月）～3月10日（木）
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在校生データベースの更新・入力、サマーコースへの応募書類の整理</li> <li>・ 授業への参加（日本語文法・法律・文学など約14講座）</li> <li>・ 学生との会話パートナー（2名と週に2回、1名と週に1回、1回20分ずつ）</li> </ul>

#### 実施概要

大学3年生の春休みに約6週間、アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（IUC）でインターンシップに取り組んだ。

私は主に三つのことをさせていただいた。一つ目は在校生データベースの更新・入力、サマーコースへの応募書類の整理である。二つ目はIUCで実際におこなわれている授業への参加。日本語文法・法律・文学などさまざまな分野のものを約14講座受けさせていただいた。三つ目は学生との会話パートナーである。1回20分ずつ、3名の学生と毎週フリーテーマでお話した。参加学生にとって少しでも有意義な時間になるように、“相手の話を引き出す”ことを意識するようにした。

#### 感想・活動を通して得た学び

今改めてIUCでのインターンシップを振り返ってみると、今まで目を背けてきた自分の課題と向き合うことができた期間だったように思う。

私は元々引っ込み思案で、周りからも“おとなしい子”という印象を持たれるタイプだった。インターンシップ以前はそれに対して不安に思ったことも、それを変えようと思ったこともなかった。しかし、インターンシップ中に私の言葉の足りなさや配慮のなさから、周りの人に何度もご迷惑をおかけしてしまい、周りの人とコミュニケーションを取ることに、取ろうと努力することの大切さを学んだ。またインターンシップ期間の後半は“コミュニケーション”を意識したことで、自分の置かれている状況や周りの人々との関係は、自分次第で変えることができるということを実感した。

本当に貴重な経験をさせていただいた6週間だった。私にこの機会をくださった関係者の皆さまに心から感謝いたします。

#### 今後に向けて

今回のインターンシップを通じて、周りの人とコミュニケーションを取ることに、取ろうと努力することの大切さを学んだ。また、インターンシップを含む学生時代のさまざまな経験や出会いを通じて、自分から行動することや常に好奇心を持ち続けることの大切さを学んだ。

私は4月から社会人として働き始める。今までの活動を通してできた人との繋がりを大切にしつつ、学んだことを生かして、自分らしく真摯に仕事に取り組んでいけたらと思う。

（国際学部国際学科）

## ◇公益財団法人横浜市国際交流協会 (YOKE)

活動期間	2016年8月8日(月)～9月13日(火)
活動内容	YOKE 事業への参加、イベントなどの運営協力

## 実施概要

## (1) YOKE 事業に関するヒアリング

大学での学びと関連し、実際に YOKE 各事業の担当者の方と直接お話する機会を与えていただいた。

## (2) ラウンジ学習支援教室の運営協力

YOKE が運営するラウンジを訪問し、夏休み学習支援教室やイベントのお手伝いをした。運営を通じて実際に外国につながる子どもたちや子どもたちを支援するボランティアの方々と交流した。

## (3) イベントの運営協力、参加

「夏休み地球市民講座」「訪ねよう！横浜国際協力センター」「国際機関キャリアガイダンス」など。

## (4) YOKE 会議への参加

「訪ねよう！横浜国際協力センター」において、小学生に多文化共生や国際協力に対する理解を持ってもらうための冊子作りの会議に参加した。

## 感想・活動を通して得た学び

(1) 多文化共生・国際協力等の分野で活動されている方々と、各事業の抱える問題点やこれからの社会のあり方、多文化共生について話し合い、考えることができ、達成感や今後のやる気につながった。

(2) 今まで考えていた外国人支援に対する見方が変わり、視野がさらに広がった。ただ日本語を教えるという一方的なものではなく、実際に何に困っているのかを具体的に把握しながらサポートすることの重要性や、それを地域ぐるみで一体となってサポートしていくことの重要性を学んだ。

(3) (4) 以前は参加者として見てきたイベントを運営側として見つめ、さまざまな仕事を体験した。業務を通して、イベントであっても会議であっても、どんな仕事も一人でおこなわれるものではないこと、価値観や考えの異なる人々を理解して、ともに仕事を完成させていくことの難しさと同時に達成感を実感した。

## 今後に向けて

インターンシップでの業務を通じて、働くことの楽しさややりがいを具体的に感じることができ、これからの糧と自信につながった。また、業務中もさまざまな方々と交流を持つことができ、広い知識と視野を得ることができた。将来は誰かのために一生懸命に働くことのできる人間でありたい、日本に暮らす外国につながる方々のサポートをこれからも続けていきたいと思っている。さらに、国際機関実務体験プログラム修了生の自主組織である『over100』にて来年度から共同代表を務めることになり、プログラムを修了した後でもインターン先の方々と先輩方と交流をし、学びを深めることができるので、今後への期待を持って頑張っていきたいと思っている。

(国際学部国際学科)